

第158号

せとのおさ



令和7年度「家庭の日」に関する図画 特選作品
「みんなでぐをいれたりころころしてたべた。」 広島市立井口小学校 2年 はだ あやの 秦 彬乃



公益社団法人 青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個 人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社 会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自 然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世 界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総 括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



目次

- 2 第37回 定時総会
- 6 令和7年度青少年育成県民運動推進大会
- 10 令和7年度「家庭の日」に関する作文・図画
 作文の部 特選(広島県知事賞)
 図画の部 特選(広島県知事賞)
 入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)
- 14 「少年の主張」・中学生話し方大会2025
 (第47回少年の主張広島県大会 第59回中学生話し方広島大会)
- 16 いただきます! ぶちうま継承プロジェクト
- 20 いきいき地域活動紹介
 青少年育成竹原市民会議
 青少年育成大崎上島町民会議
- 22 あいさつ・声かけ運動
- 23 青少年育成カレッジ「総合講座」
- 28 青少年サポーター事業



第37回 定時総会

第37回定時総会を広島YMCA国際文化ホールで開催

公益社団法人青少年育成広島県民会議は、令和7年6月18日（水）13:30～15:30に「第37回定時総会」を広島YMCA国際文化ホールで開催しました。

来賓ご臨席のもと、表彰式を開催し、報告事項、審議事項、総会決議等が採択されました。

また青少年育成指導者である當山 敦己さんに「その子らしさの種を育む～信じて、見守り、ともにいる～」と題してご講演いただきました。



いん で
神出会長あいさつ



やま お
山根広島県副知事祝辞



なかもと
中本広島県議会議長祝辞

総会報告

令和6年度事業報告、令和7年度事業計画及び収支予算についての報告、並びに令和6年度決算、令和6年度監査報告、役員の選任が行われ、承認されました。



【総会議事】



総会決議文朗読
一般社団法人広島青年会議所 理事長 林 秀樹 様

総会決議

次代を担う子供たちが等しく夢と希望を育み、健やかに成長していくことは、私たち全ての願いです。青少年が未来社会の形成者としての自覚を持ち、自立した個人としての役割と責任を果たしていくことは、持続可能な地域社会を築いていく上で必要不可欠でもあります。

青少年育成広島県民会議は、昭和52年に制定した「青少年育成の基本指針」をベースに、行政や関係団体と連携した県民総ぐるみの育成運動を推進し、その時々課題に対応した取り組みを行ってきました。

ところが、いじめや虐待、貧困など、子供たちの権利が軽んじられる状況は一向に解消されていません。社会生活を営む上でさまざまな困難を抱える青少年も多くなってきました。インターネットやスマートフォンの使用による被害が見過ごせないのも現状です。

子供は大人の映し鏡です。青少年を取り巻くこのような状況は、現代社会の反映、縮図にほかならず、大人から模範を示していくことが欠かせません。

私たち県民会議は、人と人とのコミュニケーションの第一歩である「あいさつ・声かけ運動」を基軸に置き、今後も地域の将来を見据えたさまざまな青少年育成事業を積極的に展開してまいります。

「青少年育成の基本指針」の前文は、「青少年の前途に幸福の『青い鳥』の夢を託したい」と結んでいます。子供たちが一層大切にされる社会を創るため、県民運動をさらに発展させ、青少年を温かく見守り、支援していくことを、私たちの総意としてここに決議します。

令和7年6月18日

公益社団法人青少年育成広島県民会議第37回総会

令和7年度青少年育成広島県民会議表彰

優れた行為のあった青少年・団体や地域で自主的な活動を積極的に続けている青少年育成功労者・団体・企業を、毎年、定時総会で表彰しています。

令和7年度の青少年育成広島県民会議表彰を受賞された皆様をご紹介します。

青少年育成広島県民会議 第37回定時総会



青少年(3人)

佐田 晴菜 (広島市)

島谷 成悟 (三原市)

松尾 叶 (三原市)

青少年育成功労者(50人)

赤谷美津子 (広島市)
上田 晶 (広島市)
植田 成年 (広島市)
上満 千浪 (広島市)
大江 節子 (安芸高田市)
大島 正 (呉市)
小國 照子 (三原市)
勝乗 賢美 (広島市)
河村 博祥 (尾道市)
川本 敦夫 (尾道市)
川本志津代 (呉市)
木原三枝子 (三原市)
熊谷加代子 (呉市)

小谷 妙子 (広島市)
児玉 裕子 (安芸太田町)
小林 祥孝 (尾道市)
小松 保子 (広島市)
佐古はるみ (三原市)
佐々木昭三 (安芸太田町)
澤井寿美子 (広島市)
島田 敬美 (呉市)
城仙 哲宣 (広島市)
白井 為典 (呉市)
白川 浩寅 (広島市)
武田 裕香 (広島市)
谷本美代子 (福山市)

寺地まりな (広島市)
長岡 美香 (広島市)
中澤 俊之 (広島市)
中村 文男 (三次市)
西本 一 (福山市)
野村登美子 (広島市)
橋本 直樹 (広島市)
旗手 玉喜 (尾道市)
花岡 英二 (広島市)
普家 俊一 (尾道市)
藤崎 昌生 (広島市)
増田 四郎 (東広島市)
松井 知己 (海田町)

三浦 勝司 (広島市)
宮地浩一郎 (安芸高田市)
宮本 和彦 (竹原市)
村上 三郎 (東広島市)
村上美奈子 (尾道市)
安永 恒夫 (東広島市)
山下 直子 (広島市)
山田 明美 (広島市)
大和 建之 (広島市)
山本 直史 (広島市)
山本 秀幸 (広島市)

青少年育成功労団体(7団体)

上安少年野球クラブ スポーツ少年団 (広島市)
きらきら絵本館 (安芸高田市)
河内少年軟式野球クラブ スポーツ少年団 (広島市)
このゆびとまれ (呉市)

長迫小学校読み語りボランティア (呉市)
めっきらもっきらの会 (呉市)
入野自治組織 雫の郷 青少年育成部 (東広島市)
福山ミニテニス協会 (福山市)

模範活動団体(2団体)

広島県立河内高等学校 (東広島市) 福山甲田ジュニアオーケストラ (福山市)

「その子らしさの種を育む ～信じて、見守り、ともにいる～」

青少年育成指導者 當山 敦己（あつき）さん

〈プロフィール〉

1991年生まれ沖縄県出身。

幼少期から自身の性別に対する違和感を持ちながらも、それがなぜなのか分からず誰にも言えないまま高校生まで過ごす。高校2年生の時に「性同一性障害（現：性別違和）」という言葉を知り、25歳の時に戸籍上の性別を女性から男性に変更。

信頼できる先輩へのカミングアウトによって、人生を変えるきっかけとなった『違いは魅力』という言葉で、今度は自分が伝える側になりたいと思い、2017年広島県に移住。2018年ここいろhiroshimaを仲間と共に立ち上げる。ここいろhiroshimaや電話相談などの相談支援の現場、身近な親族だった2人の叔父の自死を経験したことで、「人のこころの仕組み」や「自死を選ばざるを得ない環境要因・社会構造」に関心を持ち始めている。

2024年12月「人生は選べる!～トランスジェンダーの僕が30歳になって気付いた人生の歩き方～」出版（amazon販売）



【見えない”その子らしさ”を持っている子どもたち～LGBTQユースとの出会い～】

私は2018年2月、仲間とともに「ここいろhiroshima」という団体を立ち上げて活動を始めました。ここいろhiroshimaは、LGBTQ（そうかもしれない子も含む）の子どもとその保護者をサポートする団体です。

活動を始めて8年が経とうとしている今、交流会や相談事業（対面・オンライン）、講演先の学校で出会った子どもの数は延べ2000人を超えています。

「自分は性自認や性的指向に関する悩みがある」と言葉にして相談に来る子もいれば、「よく分からないけどモヤモヤする。生きづらい。苦しい」と、言葉にならないものを抱えながら私たちのもとへやってくる子どももいます。

講演や研修先で、「自分の周りにはLGBTQの人はいない」「うちの学校にはいない」「出会ったことがなかった」という声も少なくありません。私の話を聞いて、人生で初めて身近に感じられたからこそ出てくる言葉だと思います。しかし、「本当に居ないのだろうか?」「出会ったことがないのだろうか?」と、自分に問い直す大人が増えるだけで、きっと目の前の子どもたちは救われると思うのです。

「LGBTQ」という特性は、目に見えない、見えづらいものでもあります。社会的に少数派というだけで日常的に差別や偏見、無理解にさらされている場面も多いため、当事者は「自分がおかしいのかもしれない」という自分への嫌悪を抱いていることもあります。そして、「誰にも理解してもらえないかもしれない」と思い、信頼できる人とつながれないまま、学校に行けなくなったり、心身の不調を抱えて孤立につながってしまうケースも少なくありません。

実際、LGBTQの子どもたちの自殺リスクの高さは、10代の全国調査のデータと比較しても約4倍高いというデータが出ています。（「LGBTQの子ども・若者調査2022」認定NPO法人 ReBit）

このデータは、子どもたちが孤立からくる生きづらさや苦しさを誰にも言えないまま、自分を傷つけることや「死にたい」という気持ちを表現することで、どうにか日々過ごしていることの現れだともいえます。

相談にくる子どもたちは言います。「自分の親や先生には言えない」「他に相談できる人がいない」と。

私たちは、意識していないものは見えないし、見ようもしないし、想像もできないものです。「自分の身近には

いない」という感覚が、無意識に出る言葉や行動に現れるのではないのでしょうか。そしてそれが、目の前にいる子どもを傷つけ、置きざりにしてしまっ、孤立させてしまっているのではないのでしょうか。

【かつての私は、「未来に希望を持たない子ども」でした】

私自身、心と身体の性別に違和感を持ちながら生きてきて、25歳の時に性別適合手術を受け、戸籍上の性別を女性から男性に変更したトランスジェンダーの当事者でもあります。幼少期、自分が「人と違う」と感じたとき、ものすごく大きな恐怖感がわいてきたのを覚えています。

「この気持ちは誰にも分ってもらえないかもしれない」「これからどうやって生きていけばいいのだろうか」と、自分が生きる未来が想像できませんでした。

ロールモデルも見つからず、自分という存在は無いことにされているような社会の仕組みの中で、誰に相談して良いかわからず、何を頼りにして人生を進めて行けばいいのかが全く掴めなかったのです。大学3年生のときには、周りの友人たちが卒業後の進路に向けて動いているなか私は家に引きこもり、出口が見えない真っ暗なトンネルの中にいるような感覚で、毎日「死にたい」と思いながら生きるのに精一杯で、ただただ時間が過ぎるのを待っている日々でした。

そんな中、私の人生に「希望」を灯してくれた出来事がありました。人生で初めて、自分がトランスジェンダーであることを打ち明けた先輩に言われた言葉に、人生が180度変わるような衝撃を受けたのです。

『人と違うことは魅力なんだよ』『俺は絶対に味方だから、堂々と生きたら良い』

この言葉で、「自分には味方がいる。自分らしく生きてみよう」と、私は前に進むことが出来ました。

人は、自分のことを受け止めてくれる信頼できる存在に出会えた時、生きる希望が湧いてくるんだと思えた瞬間でした。この出来事から10年以上経った今、私は「まだまだ生きたい」と思っている未来を生きていることに正直びっくりしています。

【子どもたちが希望を持てる社会とは】

子どもたちが希望を持てる社会とは、特別な制度や特別な支援だけで成り立つものではありません。

目の前にいる子どもの違和感やモヤモヤに気づこうとする大人が増えること。

わからないことや、自分とは違う他者を理解しようとするのはものすごくエネルギーが必要です。それでも、「分からないけれど、あなたの味方でいたい」と伝えられる大人がそばにいること。信じてくれる大人が居ると感じられること。

その積み重ねが、子どもたちが自分らしく生きられる未来を支えるのだと思っています。

過去の私が先輩から受け取った「味方でいるよ」という言葉は、いまでも私の背中を押し続けています。この温かな体験が、生きる希望となってくれてくれます。子どもたちにとって「分かってもらえた」という体験が「その子らしさの種」を育て、花を咲かせるチカラになっていきます。

どんな子どもたちにとっても、「自分はここにいていい」と感じられる環境を作ることは、大人が担う大切な役割です。

- 子どもの声に耳を澄ませること
- 自分の思い込みに気づこうとすること
- 想像すること
- 「あなたは一人じゃないよ」「大切な存在なんだよ」と伝えていくこと

その一つひとつが、子どもたちにとっての光になります。ぜひ、あなたが出来ることから始めてみてください。

そして何よりも、私たち大人が希望を持ちながら生きていく姿を見せていくこと。慌ただしい社会の中で、大人も余白が少ない日常を強いられていることも多いと思います。自分自身の声に耳を傾けて、自分が心地いいと思える選択をしながら過ごされることを願っています。

令和7年度 青少年育成県民運動推進大会

令和7年11月1日(土)、広島県民文化センター多目的ホールにおいて、
青少年育成県民運動推進大会を開催しました。



大会次第

【開 会】

- 国歌斉唱
- 開会あいさつ
(公社) 青少年育成広島県民会議会長
- 来賓祝辞
広島県知事
広島県議会議長
- 表 彰
青少年健全育成成功労者等知事表彰
「家庭の日」に関する作品の知事表彰

【少年の主張意見発表】

第46回少年の主張広島県大会県知事賞受賞

第46回少年の主張全国大会国立青少年教育振興機構努力賞受賞
「1ピースから広がる未来」

広島国際学院高等学校1年 大段 りあ さん

< 休 憩 >

【青少年活動発表】

和太鼓クラブ「海田鼓童子」

【講演会】

講師 折茂 武彦 さん
(株式会社レバンガ北海道 代表取締役社長)

演題 「我がバスケットボール人生」

【閉 会】

- 閉会あいさつ
(公社) 青少年育成広島県民会議副会長



神出会長あいさつ



信夫環境県民局長
祝辞



伊藤広島県議会
警察・商工労働委員会委員長
祝辞

式典では、主催者を代表して、(公社) 青少年育成広島県民会議 神出 亨会長が開会のあいさつをしました。

続いて、来賓の広島県知事代理の環境県民局長 信夫秀紀様、広島県議会議長代理 広島県議会警察・商工労働委員会委員長 伊藤英治様からご祝辞をいただきました。

次に広島県知事表彰として、永年にわたり青少年の健全育成に力を尽くした方々や団体、模範的な活動を行っている団体を表彰しました。また、県内の小・中学生から応募があった「家庭の日」に関する作文・図画の特選に選ばれた4人に県知事賞を授与しました。

終わりに、(公社) 青少年育成広島県民会議の江種則貴副会長が閉会のあいさつを行い、すべてのプログラムが無事に終了しました。



江種副会長
閉会あいさつ

大会の様子は
こちらから



令和7年度青少年健全育成成功労者等知事表彰受賞者

(青少年健全育成成功労者38人)

あらたに せいじ 荒谷 精二(熊野町)	あり ま よしのり 有馬 義憲(広島市)	いちかわ まさし 市川 昌志(尾道市)	いま だ ようこ 今田 洋子(竹原市)
いわもと まちこ 岩本真知子(広島市)	うえなが かつなり 植永 勝成(広島市)	うね いくえ 宇根 育恵(広島市)	かじもと のりふさ 梶本 法房(広島市)
かね こ まり 金子 真里(呉市)	かみこうち まさかず 上河内正和(広島市)	かやもと よしお 茅本 吉生(呉市)	かわむら りえ 川村 理栄(尾道市)
かわもと え 川本マツ枝(広島市)	くしい よしなり 串井 良成(広島市)	さかもと てつろう 坂本 哲郎(広島市)	さく まよしてる 佐久間義輝(広島市)
しょうじ よしろう 庄子 佳良(広島市)	たかはし あきひこ 高橋 明彦(広島市)	たかはし としゆき 高橋 利行(尾道市)	だ て よしあき 伊達 義明(東広島市)
たていし やすじ 立石 安次(尾道市)	たにくち たみこ 谷口 民子(広島市)	たにもと よしあき 谷本 悦章(坂町)	てらにし たかね 寺西多加根(広島市)
なが お ひろし 長尾 浩士(広島市)	なかむら あきよし 中村 彰良(広島市)	にしむら かずのぶ 西村 一伸(広島市)	ぬま た なおあき 沼田 直亮(広島市)
の み やましゅういち 野見山修一(呉市)	はこざき とちゆき 箱崎 友幸(尾道市)	ふくだ かつき 福田さつき(広島市)	ふくどめ よしつぐ 福留 好紹(広島市)
ふじい としひろ 藤井 利宏(広島市)	かつひろ かつひろ 藤本 克裕(広島市)	ふじわら のぶひこ 藤原 信彦(広島市)	まつなが み え こ 松永三枝子(広島市)
よしおか こ 吉岡かや子(広島市)	わき たかはる 脇 孝治(広島市)		

(育成功労団体2団体)

う かいいきしゅうへん
鵜飼駅周辺をよくする会(府中市)

ぞう か あい かい
造賀を愛する会(東広島市)

(模範活動団体1団体)

くれ し りつかたやまちゅうがっこうせい と かい
呉市立片山中学校生徒会(呉市)



令和7年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者

(作文の部)

特選 三原市立糸崎小学校3年
特選 広島市立井口小学校5年
特選 北広島町立豊平学園8年

(図画の部)

特選 広島市立井口小学校2年 秦 彬乃



(50音順、敬称略)

青少年活動発表

和太鼓クラブ「^{かい た つみ どう し}海田鼓童子」

海田鼓童子は、和太鼓文化の伝承と青少年の健全育成を目的に、小・中学生を対象とした和太鼓クラブとして2006年4月海田町にて結成され、今年20周年を迎えます。現在、団員は小学生から大学生までの43名で、広島に古くから伝わる地太鼓打法の伝承と、力強く心に響く和太鼓演奏を目指して日々稽古に励んでいます。2008年、2010年、2016年と、けんみん文化祭ひろしま・和太鼓フェスティバルにおいて最優秀賞を受賞、2009年静岡県、2017年奈良県で開催された国民文化祭への出場を果たしています。



少年の主張意見発表

第46回少年の主張広島県大会県知事賞受賞・
第46回少年の主張全国大会国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「1ピースから広がる未来」

広島国際学院高等学校1年 ^{おおだん}大段 りあ さん ※受賞時は、呉市立仁方中学校3年

昨年開催した「少年の主張」・中学生話し方大会2024において広島県知事賞を受賞した広島国際学院高等学校1年大段りあさんが複雑な国際問題を身近な実践により自分事として捉えようとする未来志向の決意などについて、その思いを発表しました。



講演会

演題

「我がバスケットボール人生」

講師 ^{おりも たけひこ} 折茂 武彦 さん (株式会社レバンガ北海道 代表取締役社長)

プロフィール

正確な3ポイントシュートを得意とし、長きに渡って日本が誇るNo1シューターとして称される。
1993年に日本代表初選出以来、3度のアジア選手権、2度の世界選手権に出場。
1996年から8シーズン連続得点王、3度のリーグ優勝を経験。2019年1月5日には、国内トップリーグ通算10000得点を日本人で初めて達成させる。
2011年に一般社団法人北海道総合スポーツクラブを設立し、講演会や小中高生対象のバスケットボール指導など、地域・社会貢献活動にも力を入れる。2013年自身が代表を務める株式会社北海道バスケットボールクラブ（現株式会社レバンガ北海道）にレバンガ北海道の本体事業を譲渡。
選手であり続けながら、北海道にプロバスケットボールチームを残し続ける為、スポンサー関係などへ足を運び、経営者としても動く。
B.LEAGUE2019年9月、B.LEAGUE 2019-20シーズンを持っての引退。
レバンガ北海道、そして日本のバス界の発展のために、新たな一歩を踏み出した。



後援

広島県、広島県教育委員会、広島県警察、広島市、広島市教育委員会、広島市青少年健全育成連絡協議会、広島県PTA連合会、広島市PTA協議会、広島県高等学校PTA連合会、広島県地域女性団体連絡協議会、広島市地域女性団体連絡協議会、広島県少年補導協助力連絡協議会連合会、(一社)広島青年会議所、(一社)広島県子ども会連合会、広島市子ども会連合会、広島県少年補導センター連絡協議会、広島県民生委員児童委員協議会、広島市民生委員児童委員協議会、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送（順不同）

明るい家庭の日運動

令和7年度
「家庭の日」に関する
作文・図画

健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。

青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。

この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、県内の小・中学生を対象に募集を行い、県内の小学校29校、中学校26校から作文・図画を合わせて944作品の応募がありました。

これらの作品は、日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと、家族に感謝している心や存在の大切さなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

審査の結果、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文20作品、入選図画5作品が選ばれました。

令和7年度「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品 入賞者

作文の部

●特選(広島県知事賞)

三原市立糸崎小学校	3年	岡	野	真	拓	「せんたく物にはひみつがいっぱい」
広島市立井口小学校	5年	落	合		新	「毎朝のひみつのかけ声」
北広島町立豊平学園	8年	原	田		唯	「父さん、見ていますか?」

●入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)

東広島市立西条小学校	1年	砂	岡	吉	紀	「かぞくでおろちをつくったよ」
広島市立千田小学校	1年	中	原	千	晴	「だいすきなおにいちゃん」
三原市立糸崎小学校	2年	川	根	遥	人	「早くおとうとに会いたいな」
竹原市立竹原西小学校	3年	水	野	里	咲	「わたしの家族のこと」
竹原市立竹原西小学校	4年	松	木	天	聖	「ぼくらの大切な家族」
東広島市立西条小学校	5年	片	平	帆	香	「家族は最強」
広島市立緑井小学校	6年	大瀬	戸		優	「子供の私にできること」
竹原市立竹原西小学校	6年	梶	谷	奏	人	「ぼくが家族のためにできること」
東広島市立八本松中学校	1年	児	玉	明	莉	「家族との時間」
尾道市立美木中学校	1年	佐	藤	劉	弥	「『ありがとう』の気持ち」
三原市立久井中学校	1年	新	越		空	「ごめんね、そしてありがとう」
広島市立五日市中学校	1年	吉	賀		桜	「つながり」
呉市立東畑中学校	1年	見	口	雄	哉	「家族とのお別れ」
東広島市立磯松中学校	2年	岡	田	煌	生	「ぼくの自まんの家族」
三次市立塩町中学校	2年	栗	本	夏	鈴	「進むために」
海田町立海田中学校	2年	中	田	美	鈴	「私の大切な家族」
呉市立昭和中学校	2年	本	廣	佑	都	「夢を紡ぐ海の家」
三原市立久井中学校	3年	賀	上	敦	斗	「家族がいる幸せ」
東広島市立八本松中学校	3年	平	田	帆	奈	「私の成長」

※他に広島市立長束中学校に受賞者がおられますが、本人の希望により掲載を控えさせていただきます。

図画の部

●特選(広島県知事賞)

広島市立井口小学校	2年	秦	彬	乃	「みんなでぐをいれたりころころしてたべた。」
-----------	----	---	---	---	------------------------

●入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)

竹原市立竹原西小学校	1年	片	田	千	智	「おやすみのひにかぞくであそんでいるところ。」
広島市立亀崎小学校	2年	平	尾	柚	乃	「家ぞくで行った花火がすごくきれいだった。」
大崎上島町立東野小学校	2年	望	月	草	宏	「じいちゃんとおにカブト虫をつかまえたよ」
広島市立楠那小学校	3年	松	尾	知	弥	「コアラの家ぞくとぼくたち家ぞくで遊んだよ」
広島市立狩小川小学校	4年	佐	伯	梨	菜	「家族みんなで田植えのお手伝いをしました。」

ぼくが3年生になって、家族みんなでいっしょの時間がすごく少なくなってしまいました。ぼくのお父さんは、仕事で大きにたんしんふにんになって1か月に1回しかあえません。いつもいっしょだった3番目のお姉ちゃんは、中学生になって、今までみたいにずっといっしょではなくなりました。二人のお姉ちゃんも部活をがんばっていて、ぼくが起きた時には、もう家にいないこともあります。帰ってくるのもくらくなってからです。お母さんも、お父さんがたんしんふにんになってからいつもいそがしそうです。

ぼくは、家にいても一人ぼっちの気がしてさみしくなりました。ぼくは、お母さんに「みんなでおでかけしたいな。」

と言いました。お母さんが、

「ごめんね。でも今日は、めずらしくみんな家にいるから力を合わせて家のことをしよっか。」

と言いました。お出かけしないと聞いてさしよはがっかりしました。でも、やってみると楽しくて発見がたくさんありました。

お母さんは、そうじリーダーで気づきそうじ係です。お父さんは、元気いっぱいだからにわの草ぬき係です。二人のお姉ちゃんは、へやのかたづけ係です。ぼくと3番目のお姉ちゃんは、力を合わせてせんたく物ほし係です。みんなで一どにそうじをするので、家の中があっという間にぴかぴかになりました。きれいになると心もすっきりしてみんなえ顔になりました。

ぼくとお姉ちゃんでせんたく物ほしをしていると、お姉ちゃんのバスケットボールのふくが6枚もあるのに気づきました。一人3まいずつ二人で6まいです。ぼくやお母さんのふくは1まいだけです。たった1日なのに3枚もあるのは、あせをかいて何回もきがえたからです。お姉ちゃんたちは、すごくがんばっているんだなと思いながらハンガーにかけてパンパンとたたいてしわをのばしました。お父さんのシャツをほした時やっぱりお父さんののは大きいなと思いました。ぼくがきるとスカートみたいです。3番目のお姉ちゃんのせいふくと体そうふくの同じところには、ひっかかってできたきずがありました。

「楽きのサックスをふいていたら、ふくにひっかかってしまうんよ。」

と教えてくれました。がんばっていてすごいなと思いました。ぼくは、せんたく物には、家族のひみつがいっぱいかくれていて宝さがしをしているみたいでした。みんなで遊園地に行ったのと同じくらいわくわくしていつの間にか心がぼかぼかになっていました。

ぼくは、一人ぼっちでさみしいと思っていたけど、お父さんもお母さんもお姉ちゃんたちもみんながんばっているんだと分かってうれしい気持ちになりました。もうさみしくなんてないよ。だってみんなの心はつながっているから。

ぼくの家は4人家族です。わが家には、毎朝やっている、家族だけのひみつの習かんがあります。それは、「今日も」「一日」「元気に」「がんばるぞー」と、4人順番にかけ声をかけることです。かけ声の後、全員で「おー!」と元気よく声を出しています。

かけ声の順番がループするように決まっているので、だれから始めても最後までまようことなく声を出すことができます。

去年、弟が小学校に入学してからしばらくして、朝「学校に行きたくない」と言う日がふえてきました。理由は分からないけど、なんだか元気が出ないことがあったみたいでした。

そんな時、お母さんが「よし!がんばってみよう!」と声をかけているのを聞いて、ぼくはそれをみんなで言ってみたらどうだろう?と思いました。試しに順番に声を出してみたら、始めはうまく声が合いませんでしたが、だんだん息が合ってきて、きれいにそろうととても気持ち良かったです。

今では毎朝必ず誰かが「今日も」と大きなかけ声を出すところから一日が始まります。なんとなくやる気が出ない時も、まだねむたいと思う時も、「おー!」と声を合わせると、元気スイッチが入るような気がします。

最近では二人で「今日も」を言うバージョンや、一日の最後に「がんばったね!」「おつかれ様!」と声をかけ合うバージョンも作ってみました。新しいバージョンを始める時はすぐにはうまくいけないけれど、みんなで協力してゲームをクリアしているような気持ちになれます。

もしこれから家族がふえたら、こんな風にセリフをふやして、5人でも6人でも続けたいと思います。

平日は、ぼくと弟は学校。お父さんとお母さんは仕事。毎日、楽しいこともあるけれど、そうではないこともたくさんあります。声かけをする時は「がんばっているのはぼくだけじゃなくて、家族みんななんだ。」そう思うと、ぼくたちはただ家族なだけじゃなくて、いっしょにたたかう仲間みたいな気持ちになれる気がします。

他にも、やる気がない時はギュッと10秒ハグをして、じゅうでんすることもやっています。ちょっとはすかしいけど、家族はぼくにパワーをくれるそんざいです。

これからも、誰かが元気がない時は、ぼくがそっ先して声をかけたり、ギュツとしてパワーをあげたりしていきたいです。

私は今年の7月にある決心をしました。

私の家庭は家族6人でした。

「でした。」と過去形になっているのは、今年の7月に父が亡くなったからです。

私の父は、とにかく人を笑わせることが大好きな人でした。友達が家に遊びに来たらなぜか父も一緒に遊んだり、友達が帰る時にお菓子ではなく、豆腐をあげて友達を笑わせていました。

そんな父が私の授業参観に来た時、私の友達が後ろを向くと、父は授業中にもかかわらずピースをしたり、こっそり手を振ったりして友達を笑顔にしていました。なので授業参観後、友達は私に「手を振ってくれた。」と喜んで言いに来ます。私は正直恥ずかしかったけれど、周りの友達から愛された父の姿を見て、嬉しくもありました。また父は無類の社会科好きで、特に地理や歴史に関わることとなると、喋りだしたら止まらない人でした。家族で旅行に行ってもテーマパークで遊びたい私達の気持ちはそっちのけで、お城や資料館など、自分の興味のあるところに私達を連れて行きました。また、うっかり質問でもしようものなら話を2倍も3倍も大きくしてしまう人でした。社会科の知識をたくさん持っている父は、私の社会の勉強をクイズ形式などで全て教えてくれました。

そんな父は私が小学3年生の頃がんになって、入退院を繰り返していました。しかし家族は、父の病名を知らされておらず退院するたびに元気になって帰る父を見て、回復に向かっていると思っていました。後から分かったのですが、父が私達家族に病名を教えなかったのは、最後まで私達家族と普通に生活したかったからだそうです。

病気の進行が止められない中、父は一つも悲しい顔をせず自分にできることを楽しそうにやっていました。

その一つが、私達に勉強を教えることでした。どの教科も教えてくれるのですが、社会科に対する熱意は他とは違い、教科書を片手に問題を出してくれたり、私の質問に答えてくれたりしました。また、私が社会について言ったことが正解だったら「さすが。」と大げさに褒めてくれました。

そして私が中学2年生になる頃でした。父の体は段々と弱っているようでしたが、地域のことも、私達の勉強のことも1ミリも手を抜きませんでした。私は父の思いに応えようと勉強を必死に頑張り、驚かせてやろうと思いました。一学期の期末テストで今まで以上の結果を出すことができ、父に報告すると「やっと伸びてきたね。」と褒めてくれました。そんな矢先、とうとう父は食事を取ることが難しくなり、入院をすることになりました。それでも父はまた家に帰って、私達の成績を見ることを楽しみにしていました。私も病院へ見舞いに行っは、「夏休み成績を見せに来るからね。」と言いました。しかし、入院してわずか三日後に父は静かに息を引き取りました。

父は私達に遺言のような手紙は結局残さず、いつも通りの父のまま旅立ちました。

しかし唯一残してくれたものがあります。それは父が社会科の教科書を見て大事なところを全て問題にしてくれた、約300枚のスライドです。私はこれを宝物と思って、大切に使っています。

父が亡くなり、自分にとって忘れないようにしているのは「私は、父の後継者なんだ。」という言葉です。私は、父の後継者だと思うと天国から見て父も喜ぶのではないかと思います。私達家族は5人になっても、これまで以上に、にぎやかで笑顔あふれる家庭を築いていきたいです。

そして、父に誇りに思ってもらえるような自分になりたいと、決心しました。





竹原市立竹原西小学校 1 年

片田 千智

おやすみのひに
かぞくであそんでいるところ。



大崎上島町立東野小学校 2 年

望月 草宏

じいちゃんと
よるにカブト虫をつかまえたよ



広島市立楠那小学校 3 年

松尾 知弥

コアラの家ぞくと
ぼくたち家ぞくで遊んだよ



広島市立亀崎小学校 2 年

平尾 柚乃

家ぞくで行った花火が
すごくきれいだった。



広島市立狩小川小学校 4 年

佐伯 梨菜

家族みんなで
田植えのお手伝いをしました。

協賛: 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ

「少年の主張」・中学生話し方大会 2025

第47回少年の主張広島県大会

第59回中学生話し方広島大会



呉市立宮原中学校 3年 中元 桜愛さん



広島県大会の出場者の皆さん

令和7年9月6日（土）、広島県社会福祉会館において、「少年の主張」・中学生話し方大会2025（第47回「少年の主張」広島県大会、第59回中学生話し方広島大会）を広島県中学校話し方連盟と共催で開催しました。

今大会には、県内中学校の36校から4,239編の応募があり、その中から原稿審査を通過した基準を含む16人が、それぞれの主張を力強く発表しました。

発表は、家族、学校、ボランティア体験など、自分の身近な内容が多く、自分の実感を上手に日常生活や家族関係の中で、具体的に考え抜いたことを発表していただきました。さらに、今年は1年生、2年生が多かったことも心強く感じられました。

ここに、広島県知事賞を受賞した呉市立宮原中学校3年中元 桜愛さんの意見発表を掲載します。

受賞者一覧

受賞名	中学校名	氏 名	題 名
広島県知事賞	呉市立宮原中学校 3年	中元 桜愛	克服への第一歩
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	広島市立瀬野川中学校 3年	朝井咲明子	おばあちゃん~あげたもの・もらったもの~
広島県中学校話し方連盟会長賞	広島市立東原中学校 2年	土井 心菜	「ありのまま」に輝く世界
国際ソロプチミスト広島会長賞	竹原市立賀茂川中学校 3年	中村 早那	挑戦することの大切さ
広島清流ライオンズクラブ会長賞	広島市立高取北中学校 1年	長倉 朱音	つながる温もり
優秀賞	三原市立第一中学校 2年	森川 芽依	救える命 守れる笑顔
優秀賞	東広島市立八本松中学校 3年	佐藤結衣奈	温かい環境づくり
優秀賞	尾道市立向島中学校 2年	櫻武 優衣	わたしの将来の夢
優良賞	三次市立甲奴中学校 2年	松岡奈々子	言語の壁を乗り越えて
優良賞	山陽女学園中等部 3年	岩本 愛瑠	心があたたかくなるとき
優良賞	坂町立坂中学校 1年	中村 縁宗	ぼくもボランティアになれる
優良賞	尾道市立高西中学校 1年	有馬 日和	私の心の第一歩
優良賞	広島県立広島中学校 2年	奥田 祐	私たちの手で自然を守る
優良賞	尾道市立御調中学校 1年	国当 晃暉	僕の住む町を守っていく
優良賞	庄原市立口和中学校 3年	本山 琉弥	曾祖父の思い
基準特別賞	広島市立国泰寺中学校 1年	藤井 陽由	土曜日の讃美歌

広島県知事賞 少年の主張全国大会 国立青少年教育振興機構 努力賞

克服への第一歩

呉市立宮原中学校 3年 ^{なかもと}中元 ^{さくら}桜愛 さん

周りと違うということは、時に大きな武器になり得ることがあります。しかし、学校という狭い世界では、己に刃を突き立てることもあるのです。

「アイツなんか変じゃない?ねえ?」

「NO」とは言えない圧力のある言葉。その言葉に「NO」とも「YES」とも答えられない私は苦笑いをして誤魔化すのでした。

「どうしてそんなことで笑えるのだろう。」

違う意見を言えない環境、自己犠牲を躊躇する自分。それらは、私の頭の中に小さな違和感を少しずつ芽生えさせていきました。

学校で、地域の方々や保護者も参加する大きな催しがあったときのことです。この日、あのとき芽生えた違和感の正体を明らかにする鍵を見つけました。開始時刻まであと数分。会場が静かになりかけていたとき、突然、体育館に大きな奇声が響き渡りました。その奇声は、私の妹のものでした。私の瞳にクスクスと笑う姿が映ったとき、ふと、妹への好奇の目に対する不安をこぼした、母との約束を思い出しました。

「そんな人たちにはズバツと言っちゃるけえ! 大丈夫、桜愛の心は強いんだよ!」

自信を持ってそう言っていた私ですが、いざその場面に直面したとき、何も言うことができませんでした。悔しい・・・でも怖い。私は、彼らに声をかけることすらできなかったのです。妹は障がい者で、重度の知的障害と自閉症を持っています。15歳の私と3つしか変わらない妹は健常者と同じ見た目をしていますが、赤ちゃんのような言語能力で、異常にこだわりが強く、過敏です。しかし、それが私の大切な妹なのです。だからこそ、彼らに何も伝えられなかったのが悔しくてたまりませんでした。

そんな時、担任の先生に話し方大会に出てみないかと誘われました。チャンスだと思いました。筆を握り、言葉を振り絞ります。あの日の後悔を書こう。妹を題材にした作文は、不思議と思うように書けませんでした。考えれば考えるほど、書きたいこととは真逆の感情があふれ出ます。

「妹は、どうして笑われなければならないのか。」「これから先、私に自由はあるのだろうか。」「妹が健常者なら・・・」それ以上書き進めることができませんでした。しかし、何度も読み返して気が付いたのです。

「・・・環境じゃない、私が変わらなくてはいけないんだ。」

周りの目を気にして生きてきました。本当の気持ちを表に出さず、抑えつけてきました。あの日、「NO」と言えなかったこと、妹を笑う彼らと向き合えなかったこと。私自身の心の弱さが、環境や他人のせいにさせているのだと、この大会を通して気が付くことができました。もし、これを聞いているあなたにも何かわだかまりがあるのなら、一度吐き出してみてください。その小さな一言が自分の本心に気づき、未来を築くきっかけになるかもしれません。まだ、私も自分の心の弱さを克服する一歩を踏み出したばかりです。この先、様々な困難と出会うたびに、逃げだしたくなることもあるかもしれませんが、それでも、私は自分自身の心と戦います。その弱さに向き合いながら。

主催：(公社)青少年育成広島県民会議、広島県中学校話し方連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構
協賛：国際ソロプチミスト広島、広島清流ライオンズクラブ、(公財)広島青少年文化センター

第五弾



地域に伝わる「食」をみんなで味わいながら、そのおいしさを育んだ地域の歴史も学び、子どもたちの生きる力を伸ばすとともに、次の時代へ伝統文化を継承していこうというプロジェクトです。令和3年度から計画的に進めています。

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会 後援：竹原市

第一弾「廿日市桶ずし」、第二弾「三次に伝わる郷土のおやつ」、第三弾「北広島町・りんご狩りと郷土料理」、第四弾「福山市・とれぴち魚」に続き、今年度は竹原市で「じゃがいも掘り体験とはちみつ」をテーマに実施しました！！

じゃがいも掘り体験とはちみつ

と き：令和7年12月6日(土)

ところ：吉名地域交流センター
(竹原市吉名町)



ナビゲーター
平山 友美さん



現地ナビゲーター
山田 智嗣さん
(竹原の食を考える会代表)



吉名じゃがいもの歴史



かつては日本一高値を付けた吉名のじゃがいも。今は収量が激減し、「幻のじゃがいも」とも言われています。



じゃがいも収穫体験



夢中になって
じゃがいもを掘る子供たち。
大きくても小さくても
宝物を掘り当てたよう!



じゃがいもクイズ



じゃがいもクイズ①

じゃがいもはどのぶぶんを食べている
でしょうか？

- ① くき ② はっぱ ③ ねっこ

じゃがいもクイズ②

こたえ…

① くき



こうして学び、「知ること」が
おいしさ変わります

調理体験・試食



お待ちかねのお昼ごはん。
メニューは、じゃがいもクイズで話題にした4県の郷土料理と
さつまいもごはん、里芋のに入った豚汁!!



北海道
いもち



福島県
みそかんぷら



長野県
いもなます



栃木県
いもフライ

吉名学園生徒からの ふるさと納税の説明



はちみつのお話・ ワークショップ





はちみつがどうやってできるのかな、ミツバチはどうやってミツを運んでくるのかな、
学んだあとは、ハチの巣箱の中をのぞいてみました。



今年度のぶちうま継承プロジェクトも学びあり、楽しさあり、驚きと気づきありの盛りだくさんで、有意義な食育の時間になりました。あえて、じゃがいも・はちみつという、ごく身近な食材を取り上げました。見た目の華やかさはないものの、そこには長い歴史があり、文化があります。誰がどうやって育てたものか、実際に自分で収穫してみる、味を付ける前はどんな味なのか、畑からキッチンを経て、食卓に届くまでのプロセスを体験するところに、たくさんの「ワクワク」が隠れていました。

最近は「お母さんの味は?」と聞かれて、答えられない子供が増えていると聞きます。レパートリーが少ない、いつも同じものだと「飽きた」と言われるそうです。でも悩むことはありません。旬のものを、身近にあるものを、ただ安全に、食べやすくすることが調理の基本なのです。我が家のワンパターンに価値を見出せる、そんな子どもが育ってくれることを願っています。

(ナビゲーター 平山友美)



現地ナビゲートをお願いした山田智嗣さん(竹原の食を考える会代表)、「吉名じゃがいもプロジェクト」元矢和司さん、有田志穂さん、吉名学園の皆さん、はちみつのお話の「FUKUBEE(フクビー)」福島大樹さん、野菜ソムリエの大西真由美さん、竹原市の関係者の皆さん、大変お世話になりました。

この度のプロジェクトの様子はこちらから



青少年育成竹原市民会議

青少年育成竹原市民会議は、市内の関係機関の協力のもと、青少年の健全な育成を図ることを目的に、地域における青少年育成活動支援を行っています。

竹原市民会議として開催している「少年の主張」中学生話し方大会及び、主な地域活動について紹介します。

【「少年の主張」竹原市中学生話し方大会】

毎年6月頃に、中学生話し方大会を開催しており、今年は7月5日（土）に開催し、第21回目となりました。

関係者を含め185名の聴衆の前で、市内中学校、義務教育学校後期課程の生徒が、社会情勢、学校生活、家族についてなどの思いや意見を発表しました。大人も中学生の率直な意見に触れることで理解を深めることができ、「感動した」「聞けて良かった」といった声がたくさん聞かれました。

また、審査員長の教育長から、発表者一人ひとりへの温かい講評をいただき、中学生にとって貴重な素晴らしい体験となりました。

竹原市長賞を受賞し、9月に開催された広島県大会に出場した生徒は、国際ソロプチミスト広島会長賞を受賞し、市長への報告会も開催しました。

【あいさつ運動】

青少年育成竹原市民会議、地域見守隊、地域の自治会長、組長、小学校長の方たちで、月1回、数か所で登校中の児童の安全を見守りながら、あいさつ運動を実施しています。

また、あいさつ運動を広く啓発するため、「みんなであいさつ声かけを」の看板を、各地域に掲げています。

【こども「陶芸体験教室」】

地域の大人と児童がコミュニケーションを図る。土からいろいろな作品、器などができることを楽しみながら陶芸の魅力を学ぶ、をねらいとして陶芸教室を開催しました。講師の指導を受けながら成形から絵付けまでを、地域の大人と児童が和気あいあいと土をこね、世界で1つだけの作品が出来上がり、楽しい貴重な体験となりました。



話し方大会



あいさつ運動



陶芸体験

県内各地の市町民会議が、地域の特性を生かした特色あるイベントを開催しています。今回は2つの活動を紹介します。

地域活動紹介

いきいき

市町民会議は県民運動を推進する組織です

青少年育成大崎上島町民会議

青少年育成大崎上島町民会議では、啓発事業として町内行事において啓発パンフレット等の配布、3年に一度の講演会の開催等の活動を行っています。

【人権講演会】

今年度は12月6日(土)、大崎上島文化センターホール神峰において、人権講演会を開催しました。中学生人権作文コンテスト表彰の後、映画「カムイのうた」の上映があり、会場では、「カムイのうた」のパンフレットと、町民会議で作成したシャープペンシルを来場者(計135名)に配布しました。上映後、映画プロデューサーとのトークショーでは町民から多くの質問が寄せられ、活発な意見交換会となりました。「カムイのうた」は、差別のない世界を目指すための作品でもあります。共生共和国の社会を実現するきっかけのひとつになればとの願いもこめられて作られているため、これからの日本を支えていく青少年にもオススメの映画です。

【薬物乱用防止啓発活動】

毎年10月にNPOかみじまの風、大崎上島町ライオンズクラブ主催で広島商船高等専門学校にて実施する、薬物乱用防止の啓発活動を行っています。毎年、多くの学生にも啓発活動に参加していただいています。薬物使用はたとえ1回

でも「乱用」となり、大切な脳を傷つけ、自分の意志ではやめられなくなってしまう。青少年の薬物乱用を未然に防止するためにも、今後も学生とともに啓発活動を継続していきます。

【すみれ祭り】

2月には毎年開催されている産業文化祭「すみれ祭り」があります。すみれ祭りは、町内の地域産業及び芸術文化の振興、活性化を図るため、新たなふれあいと交流の場を創造し、住みよい町づくりの推進に寄与することを目的としており、毎年大勢の方が来場されます。すみれ祭りにおける青少年への啓発活動は、主に保護者を対象に実施しています。親から子どもへと、青少年育成活動を伝えてもらうことも、大変有意義であると考えているとともに、親子で青少年活動について考える機会となることを期待しています。

大崎上島町は、人口減少により、子どもの数が著しく減少しています。また、町民会議のメンバーの高齢化も大きな課題です。啓発活動を縮小せざるをえない現実がありますが、町民会議では、今後も青少年の健全な育成のために、様々な活動を実施していきたいと考えています。



人権講演会



薬物乱用防止啓発活動

あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーン

～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

核家族化、少子化の進展や地域における人間関係の希薄化などが進む中、人と人とのコミュニケーションの第一歩である「あいさつ」の重要性が見直されています。

11月の秋のこどもまんなか月間にあたり、県内2か所で街頭啓発活動を実施しました。

※広島県が行う「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」と連携しています。

～街頭啓発に参加の関係機関、団体～

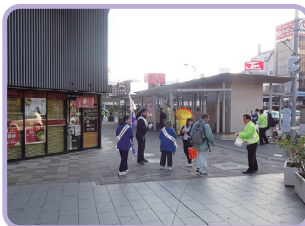
令和7年11月4日（火） JR広島駅 北口 ペデストリアンデッキ、自由通路

○公益社団法人青少年育成広島県民会議 ○広島県 ○広島県議会 ○広島県教育委員会 ○広島県警察
○広島県高等学校PTA連合会 ○広島県少年補導協助力連絡協議会連合会 ○広島市
○広島市青少年健全育成連絡協議会 ○広島市地域女性団体連絡協議会



令和7年11月7日（金） JR福山駅 南口

○公益社団法人青少年育成広島県民会議 ○広島県 ○公益財団法人福山市スポーツ協会 ○福山市
○福山市中央青少年育成員協議会 ○広島県少年補導協助力連絡協議会連合会 ○広島県議会 ○広島県警察



あいさつはコミュニケーションの第一歩！

家庭では

- 基本的な生活習慣としてのあいさつ・声かけをしましょう
「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさま」
「いってきます」「いってらっしゃい」
- 家族そろって食卓を囲みましょう
食卓を囲んでの会話から、子供の変化が感じられます。

学校では

- 登下校時、学校内であいさつ・声かけをしましょう
通学路、校門、ホームルームなど
- 保護者に対する啓発活動
通信文、保護者会などを活用して

地域では

- 登下校時のあいさつ・声かけをしましょう
地域で子供を育てる
- 地域住民が集い、声をかけあえる場づくりをしましょう
町内会行事、子供会行事などへの積極的参加の呼びかけ

市町等では

- 広報誌・会議・集会などでの呼びかけ
- 関係機関・団体への協力依頼

事業所では

- 店内・店頭での声かけ
「いらっしゃい」「おかえり」「今日は早いね」
「早く家に帰ろう」

青少年育成カレッジ「総合講座」

公益社団法人青少年育成広島県民会議では、広島県公立大学法人県立広島大学と連携して、「青少年育成カレッジ」を開講しております。青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や手法を学び、「わかりやすい」と受講者からは好評です。今年度は「生涯にわたるコミュニケーションと意思表出（決定）の支援」をテーマに、第1回は「学習に困難をもつ子どもの特徴とそのライフステージにそった支援」について、第2回は「意思決定支援の基本的な考え方と実際の進め方」について開講しました。



令和7年10月11日（土） 10:00～15:30

「学習に困難をもつ子どもの特徴とそのライフステージにそった支援」

ほそかわ あつし
細川 淳嗣 さん 県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース 講師

講義Ⅰ

「学習に困難をもつ子どもの特徴と そのライフステージにそった支援（講義編）」

発達障害と関連して学習に困難をきたすことがあります。午前中はその中からいくつかを取り上げ、その障害の特徴と小学校就学前後から高校卒業までのライフステージにそってどのような困難さがあり、どのような支援があるのかについて考えました。



講義Ⅱ

「学習に困難をもつ子どもの特徴と そのライフステージにそった支援（演習編）」

午前中の講義を踏まえて、小グループに分かれて複数の模擬事例での演習を行いました。それにより、学習に困難をきたす障害の特徴とライフステージにそった支援についての理解を深めました。



令和7年11月8日（土） 10:00～15:30

「意思決定支援の基本的な考え方と実際の進め方」

ながの なおみ さん 県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース 准教授

講義Ⅰ

「意思決定支援の基本的な考え方」

意思決定支援は、認知症や知的障害等により自分自身で判断することが難しい方のために、その意思や価値観を尊重する目的で行われてきましたが、近年は全ての方を対象とするものになっています。午前は、その基本的な考え方や方法について、講義により学びました。



講義Ⅱ

「意思決定支援の実際の進め方」

午後は、小グループでの事例検討や意見交換を通して、意思表示、決定を実際に支援する過程と意義を学びました。また、人生の最終段階の医療・ケアについて、自身の意思表示をどのように行うかを考える機会をもちました。



「認証状」授与式

青少年育成カレッジでは、所定の20単位（1講座1単位）を修得された方に、学習したことを評価して「認証状」を発行しています。これまでに95名の方が修得されており、令和7年度は新たに1名の方が修得されました。





学習に困難をもつ子どもの特徴と そのライフステージにそった支援

ほそかわ あつし
細川 淳嗣 さん

県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース 講師

1. はじめに

講座「学習に困難を持つ子どもの特徴とそのライフステージにそった支援」では、午前中には講義を、午後は午前中の応用的理解を目的として、複数の事例を取り上げ、その事例の年齢段階における学習面などの困難さと、それに対する支援について参加者同士でのグループディスカッションを交えながら演習を行いました。

2. 学習に困難をもつ子どもの特徴とそのライフステージにそった支援

午前中の講義では、以下の5点について事例も挙げながら説明をしました。

2-1. なぜ学習に困難が出る子どもがいるのか

私たちは、新しいことを学んだり、学んだことを使って問題解決をしたりするにあたり、さまざまな能力を使っています。一口に能力と言ってもそれらは多くの要素から構成されていることが知られています(図1)。

何かの課題(この場合の課題とは、学習における問題を解くだけでなく、日常生活でのやるべきことをするなど幅広いもの)を解決するためにいくつかの能力を組み合わせ使っていて、それらをどのようにどの程度組み合わせるかは課題によって異なります。

そして、それぞれの能力は、個人差があり個人の中でも得意な能力・不得意な能力と差があります。自身を振り返ってみても得手不得手があることからイメージできるかと思います。

しかし、学習に困難を持つ子どもにおいては、特に不得意な能力が個人差の範囲を超えているために、不得意な能力を多く使う学習において単なる個人差以上の苦手さとして現れます。

2-2. その原因となる障害など

学習の困難さの原因となる障害はいくつもありますが、1日の講座の中で全ての障害について取り上げることは難しいため、今回の講座では知的能力症・境界知能、特異的言語発達障害、限局性学習症(読み書き障害)についてそれぞれの能力の差の特徴やどのような困難さが主にみられるのかについて説明しました。

図2に示すように知的能力症・境界知能では多数の能力に苦手さがありますが、どの程度苦手かは人によって異なり、学習面で困難さが現れるような場合では、多数の能力が平均より苦手な辺りにあります。そのため、日常の話しことばでのコミュニケーションにはそれほど困難さが無いものの学習や抽象的なことを思考するといったことに困難が生じます。

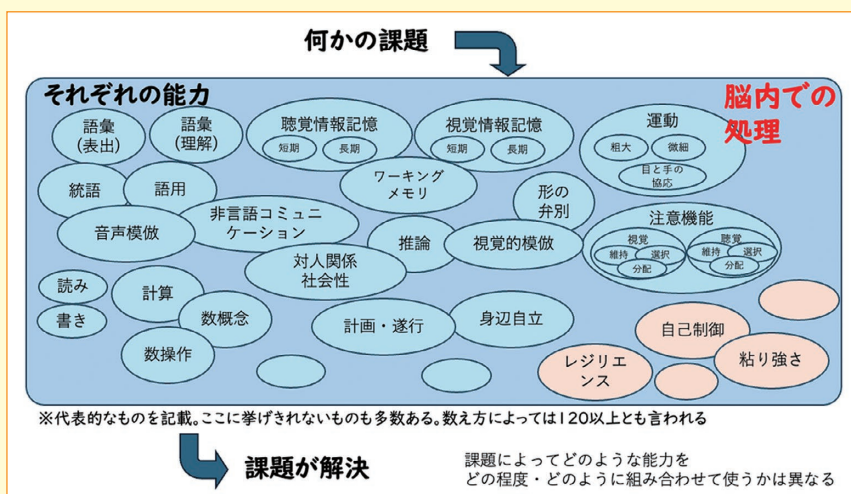


図1 課題を解決する過程で使われる能力のイメージ

特異的言語発達障害や限局性学習症では、ある特定の課題に困難が生じます。例えば、特異的言語発達障害であれば、話し言葉や書き言葉で説明をすることや語彙の少なさ、文法の誤り

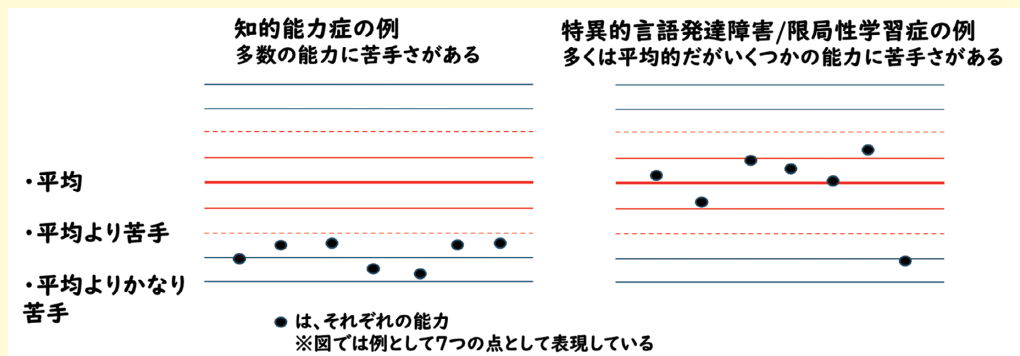


図2 学習の困難さの原因となる障害のばらつきイメージ

があることで、言葉で表現・理解することや思考することが困難である結果、学習に困難が生じます。また、限局性学習症では文字を読んだり書いたりすることに困難があることで漢字の学習ができなかったり文章を読むことにとても時間がかかったり労力を要したりします。

2-3. それが明らかになるのはどのような時期か？

前項で述べたように、学習に困難さがはっきりしてくるのは、言葉によるより複雑なコミュニケーションができるようになってくる幼児期の後半（年長さん）や特に読み書きの困難さは小学校入学後になってからです。重度の知的障害や自閉症などは、乳幼児健診などの幼児期の早い段階で気付かれて支援に結びついていることが多いですが、今回とり上げているような障害は、幼児期には気付かれにくい（そもそも平均的な発達の子どもでもできない）ものです。

2-4. 学習以外の困難さについて（二次障害）

学習の困難さは、これらの障害によって直接生じるもので、それ自体を防ぐことはできませんが、困難さに早く気がついて対処や支援をすることは可能です。一方、これらから生じる二次障害は、防ぐことが可能な場合もあります。二次障害とは、学習の困難さによって学習が進まなかったり（宿題が出せないなども含む）、周囲から叱責を受けたりと言ったさまざまな失敗経験が積み重なることで、自己評価の低下や学習性無力感（頑張っても無駄だから最初から取り組まない）から学校への行きしぶり、不登校、うつ症状の出現、反抗的行動に至るものです。

このような二次障害からの回復にはそれに至るまでの時間に比べ時間や労力（家族や支援者の負担も含む）がかかります。

2-5. 支援方法・支援のためのさまざまな資源

次に支援の考え方や支援のために使える資源（サービスなど）について説明しました。どこで躓いているか？を検討した後、①できるところから子どものペースで積み上げる（学習する）、②間違えさせない（失敗させない）学習・間違えても（失敗しても）大丈夫と思える、③得意な部分を使う、④代替的な方法を使う→合理的配慮、子ども自身が自分の特徴を知るといった支援の基本的な考え方を具体例を示しながら説明しました。

また、幼児期や学齢期、卒業後の支援で相談したり使ったりすることができる行政サービスや教育での支援（特別支援教育など）、福祉サービスなどについて広島県内での具体例を挙げて説明をしました。

3. ライフステージにそった支援の演習

午後は、午前中の講義を受けて、3つの事例を出して、どの段階でどのような支援ができそうかについてグループに分かれて参加者同士でのディスカッションを行いました。

4. おわりに

普段さまざまな立場で青少年育成に関わっている方の参加があり、参加者のこれまでの経験に基づいた方法なども共有でき多様な意見が聞けた、柔軟な対応や合理的配慮の必要性について認識できたなどの感想が聞かれました。ありがとうございました。



意思決定支援の基本的な 考え方と実際の進め方

ながの
永野 なおみ さん

県立広島大学 保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース 准教授

はじめに

今年度の青少年育成カレッジ「総合講座」で、「意思決定支援の基本的な考え方とアドバンス・ケア・プランニング」というテーマでお話しする機会をいただきました。意思決定支援の概要とアドバンス・ケア・プランニング（以下、ACPとする）についての講義の後、自己決定の課題や実際のACPの進め方について、小グループで体験する演習を行いました。参加者の皆さんが、ご自身や身近な方たちに必要なことと理解し、実際に活用して下さることを目的としています。

1. 意思決定支援とアドバンス・ケア・プランニング（advance care planning ; ACP）

意思決定支援という言葉は、近年様々な場面で用いられるようになりました。特に、認知症や知的障害のある方のケアや、病気の治療法を選択、決定する際の支援など、福祉・医療の領域で行われる意思決定支援は、ニーズの高まりと共に身近なものとなってきました。患者の意思や権利が保障され患者主体の医療が定着する中で、患者本人が治療やケアの自由な選択ができ、自分のことを自分で決定することの重要性が増していると思います。

国も徐々にその仕組みを整えており、意思決定支援に関する主な公的指針としては、①「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」（平成29年）、②「認知症の人の日常生活・社会生活における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」（平成30年）、③「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」（平成30年）、④「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」（令和元年）などが知られています。

しかし、特に医療の領域では、全身状態が悪化し意思決定能力が低下することの多い人生の終末期や認知症の症状のある方の場合、適切な選択、決定をすることはかなり困難で、上記指針も実際に生じる問題に十分対応できる内容とはなっていません。そこで、医療やケアが必要になったときに、どのような治療やケアを、どこで、だれから、どのような形で受けるのかについて、予め家族や医療・福祉の専門職などと話し合い、考えていくプロセスとして、ACPが普及してきました。医療やケアについては、将来どのような問題が起こるか予想することが難しく、また、どのような暮らしをしたいか、どのような看取りを希望するかには、それぞれの希望があります。プランニングという言葉を含んでいますが、ACPは、単に計画を作成するものではなく、当事者と専門職らで一緒に考え、話し合う過程を何より重視するものです。その過程で明らかになる本人の希望を大切に、具体的な医療やケアのあり方を検討します。したがって、

一度で完結するものではなく、身体状況や周囲の環境の変化などに応じて、繰り返し見直しを行う必要があります。

2. 自己決定はどのように行われるのか

演習では、はじめに服装を決める時や車を購入する時、どのような条件で選択しているか、各自の考えを出し合いました。服装は、好み、機能、着ていく場、組み合わせ、清潔さ、周囲との調和など、車の購入は、性能や価格の他、納車時期、維持費、だれが運転するのか、周囲の反応など様々な条件があげられ、希望や判断の材料は多様でそれぞれ重視するものは異なることを確認しています。

また、医療の領域での自己決定にはいくつかの型があり、以下3つについて特徴と問題点を確認しました。①パターナリズムモデル（父権主義モデル）：患者に選択肢を選ぶ能力がない前提で、医師が意思決定する。②シェアードディシジョンモデル（協働的意思決定モデル）：医師と患者が話し合い、協働して意思決定する。③インフォームドディシジョンモデル（情報を得た意思決定モデル）：患者が自分で主体的に意思決定する。患者は医師以外からも積極的に情報収集する。

3. アドバンス・ケア・プランニングの過程

ACPを開始する際、ACP自体を知らない方も多いため、その目的や活用のしかたなどについて、はじめに十分な説明を受ける必要があります。最近では、地域の催しで講座が開かれるなど周知が進んでいますが、横文字に抵抗を示される方も珍しくありません。開始前の説明の段階で、対応する専門職との信頼関係が築かれることが望ましいところです。ACPについて理解してもらったうえで、自分の価値観や希望について考えます。どのような治療や生活を望むのかを具体的に考え、さらに家族や親しい友人など身近な人や福祉・医療の専門職と話し合い、共有を行います。多くのことを、一人で決めるのはたいへんですが、この過程で少しずつ自分の希望が明らかに、また確かなものになっていきます。最後に、医療や生活についての意思決定を行い、書面に残します。これを必要に応じて見直し、現在の希望にそう内容にしてゆきます。

近年は、ACPに関するパンフレットや事前指示書などを配布する自治体が増えており、広島県では、広島大学・広島県・広島市・広島県医師会による広島県地域保健対策協議会（地対協）が、2014年に「ACPの手引き」と話し合いの際活用するチェックシート「私の心づもり」（後に改定）を作成しています。本講座でも、教材としてこの手引きとチェックシートを利用してACPの理解をはかり、各自の思いを書面に残しました。広島で優れた資料が作られていることに感謝すると共に、これを活用し、地域や家庭で折にふれそれぞれの思いを話し合うことができるとよいと思います。

おわりに

参加者の皆さんには、ご自身やご家族が医療を身近に感じられる年代の方が多く、我がこととして熱心にご参加いただきました。また、ご家族を見送られた方たちから、実際に困った経験やACPの必要性を実感したという感想をお聞きすることができ、たいへん勉強になりました。ありがとうございました。

青少年サポーター事業

広島県と広島県議会の共催で、次代を担う子供たちが県政に対する意見や提言を表明できる機会を通して県の魅力や課題に関心を持つとともに、県議会の役割や仕組みを知り、議会制民主主義や地方自治への理解を深め、主体性と社会参画意識を高めることを目的とした「広島県子供議会」を開催するにあたり、サポーターとして大学生を募集し、子供議員の活動を支援しました。

■ 広島県子供議会の活動支援

子供議員は46人（小学生28人、中学生18人）で次のプログラムを実施し、18人のサポーターが提案文の作成に当たって子供議員の意見を引き出すなどの支援をしました。

プログラム	内 容	活 動 日	場 所
勉強会①	◆県議会の役割を学ぶ ◆子供議会で発表する提案の作成 (グループで情報収集、意見交換)	6月21日(土) 12:30～16:00	広島YMCA 国際文化センター
勉強会②	◆子供議会で発表する提案の作成 (グループでとりまとめ、発表順などを決定) ◆議場見学	7月5日(土) 13:00～15:30	県議会委員会室
任命式 議員交流会	◆子供議員任命式 ◆県議会議員と子供議員の交流会	8月23日(土) 10:45～15:00	県議会議事堂等
子供議会	◆議場において提案発表 【出席者】子供議員、広島県議会議長、副議長、議員、知事、 副知事、教育長、警察本部長、担当局長 子供議会の様子はインターネットで配信中 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gikai/0708kodomogikai.html		



子供議員の活動支援の様子



子供議会当日の様子



毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

7月1日～7月31日

青少年の被害・非行防止
全国強調月間

11月1日～11月30日

秋のこどもまんなか月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、いただきます!ぶちうま継承プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概 要〉

設 立 昭和41年12月7日

法人格取得 平成2年10月21日

認 定 日 平成23年3月22日

育成積立金 5億円(平成3年度設置)

会 長 神出亨(元株式会社中電工相談役)

Information

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのための活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、機関紙「せとのあさ」やホームページをご覧ください。

<https://www.hiro-payd.or.jp>

■正会員

(年額)	個人	3,000円
	団体	5,000円

■賛助会員

(年額一口)	個人	1,000円
	団体	10,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」等をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

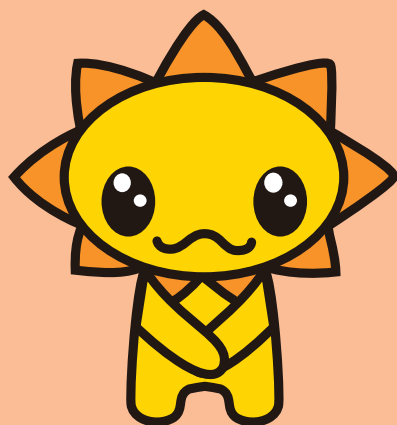
口座番号／(普通) 233251

口座名義／(公) 青少年育成広島県民会議



「ゆっぴー」は、
府中町の小学生が
太陽とライオンをモデルに、
“元気に明るく育つ
青少年”をイメージして
デザインしました。

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

せとのあさ ー第158号ー

令和8年2月発行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL.082-513-2742 FAX.082-511-2173

<https://www.hiro-payd.or.jp>



題字／茶道 上田宗箇流
第十六代家元 上田宗冨